



室内管弦楽団、
混声合唱団共に新音楽監督が就任。
新しくも美しい響きを今ここに。

Interview

《神戸市室内管弦楽団音楽監督》HIDEMI SUZUKI

鈴木 秀美

40周年を迎える神戸市室内管弦楽団。
新音楽監督が目指す“新しいかたち”とは？

まずは神戸市民にその存在をより一層知っていただき、親しんでいただけるようになりたいと思っています。音楽的には、「室内」の名が示す通り、二管編成で古典派～初期ロマン派がレパートリーの中心の楽団ですから、今後基本的には古いタイプの金管楽器とティンパニを用います。それによってとても新しい響きとなることでしょう。合唱との合同企画も充実させたいと思います。定期演奏会には各回にシリーズ性を持たせ、それぞれの面を深めるつもりです。また各文化センターでのコンサートも、クラシック音楽の面を充実させていきたいと思っています。

Profile

神戸生まれ。チェロ、指揮、執筆、録音ディレクター、後進の指導と活動は多岐にわたりサントリー音楽賞、齋藤秀雄メモリアル基金賞ほか多数を受賞。主要な古楽団体でメンバーや首席奏者を務めた。2001年《オーケストラ・リベラ・クラシカ》を創立し、自身のレーベル《アルテ・デラルコ》からその録音や室内楽等をリリース中。国内外のオーケストラに指揮者及びソリストとして客演。著書に『「古楽器」よ、さらば!』（音楽之友社）、「ガット・カフェ」「無伴奏チェロ組曲」（東京書籍）、「通奏低音弾きの言葉では、」（アルテス・パブリッシング）などがある。現在は山形交響楽団首席客演指揮者、東京音楽大学チェロ科客員教授、東京藝術大学古楽科講師を務めている。楽遊会弦楽四重奏団メンバー。また、神戸市室内管弦楽団（設立当時は神戸室内合奏団）の創立メンバー（副指揮者・首席奏者）でもある。2021年4月より神戸市室内管弦楽団音楽監督に就任。



佐藤 正浩

《神戸市混声合唱団音楽監督》MASAHIRO SATO

新監督として神戸市混声合唱団とともに
目指すものは？

設立されて32年が経ち、「市民の合唱団」として既に定着していますが、今まで以上に市民に愛され、市民の誇りとされる合唱団にしたい、そして神戸のみならず全国に知られる存在になりたいと思います。その為には技術の向上はもちろんですが、市民とのリエゾン（繋がり）をもっと密にしていきたい。街に繰り出での無料コンサートや、合唱を頑張っている小中高生を定期演奏会に招待したり、またネットを通し演奏を配信するなど、より若い世代の音楽を愛する人たちにもアクセスしていきたいと思っています。しかし何よりも大切なのは、「心に響く合唱を届ける事」だと考えています。

Profile

福島県出身。東京藝術大学で声楽を学んだ後、ジュリアード音楽院ピアノ伴奏科に進み修士課程を修了、サンフランシスコ歌劇場、リヨン国立歌劇場のコレペティトゥアとして活躍する。パリ・シャトレ劇場では副指揮者を務めながら、イギリス・ダーティントン音楽祭でオペラ指揮デビュー、日本では新国立劇場を始め、東京二期会、藤原歌劇団、日生劇場等で指揮し注目を集める。2014年から東京芸術劇場でコンサートオペラシリーズを担当、上演機会の少ない作品を次々と取り上げ話題となり、ビゼー『ジャミレ』はCDリリースされた。オペラ公演を通し三菱UFJ信託音楽賞、佐川吉男音楽賞を受賞。東京藝術大学、愛知県立芸術大学の非常勤講師、武蔵野音楽大学PCA特任准教授として後進の指導にあたる。慶應義塾ワグネル・ソサエティー男声合唱団常任指揮者、ザ・オペラ・バンド音楽監督、2021年4月からは神戸市混声合唱団音楽監督を務める。